



地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

私の経営と人材育成—会社は社会のもの、みんなのもの

「よこすか創業セミナー」講演から

会社創業を目指す人を対象に、横須賀市内で事業を成功させた経営者と、最近創業した事業者の体験発表を通じ「創業」について考える「第1回よこすか創業セミナー」が8月20日、横須賀市の主催により平成町の横須賀商工会議所で開かれました(共催:横須賀商工会議所・横須賀市産業振興財団・神奈川県)。ゼロからスタート、43年で年間売り上げ57億円まで伸ばさせた株式会社美装(横須賀市湘南鷹取)の福嶋義信取締役会長が「私の経営と人材育成—会社は社会のもの、みんなのもの」と題し講演しました。当日の講演内容に一部補足追加した講演概要は次の通りです。(広報部会)

私は昭和20年4月、横須賀市田浦町の4人兄弟の次男として生まれました。雨漏りする6畳・4.5畳二間に6人家族が住んでいました。家業を継いで建具職人になった後、22歳で「有限会社美装サッシ」を設立しました。雨漏りのしない、隙間風の入らない家に住みたいという素朴な思いがありました。当時、日本人の住まいは粗末だったので、「美しく装う住まいを作る会社をしたい」という願いを込めて「美装」を社名の一部に取り入れました。

カネも実績も信用もないスタートでした。毎日、地元の金融機関及び職業安定所に通う一方、毎月手書きで売上げなどを記入した「月次決算書」を作り、届けました。内容が良くても悪くてもとにかく毎月続けて提出しました。これは「信用」につながりました。その結果、10ヵ月後になんと80万円を融資してくれました。長く続けることが重要です。

それがキッカケでその金融機関は、今度は格好の土地を紹介、購入資金も融資してくれて、昭和46年に土地を取得し、48年4月には本社社屋を建設してしまいました。わずか創業5年後でした。

その後、紆余曲折はありましたが、昭和49年8月株式会社へ組織変更、業界に先駆けて昭和53年10月オフィスコンピュータやコンピュータ・オンライン導入に加えて、物流センター2か所(市内森崎、座間市)建設、横須賀・横浜・湘南3支店設置など積極的に投資、業容拡大に努めた結果、平成20年社長退任時には売上げ54億の企業に成長していました。

企業にとって社員のモチベーションを高く維持することは業績に直結する重要な課題で、人材育成には最大の努力をしました。昭和51年、社員の入社後2~3年ずつ期間を区切って、その期間に覚えるべき業務内容と受けるべき昇進試験、獲得を目指す資格試験を組み合わせた社員教育制度体系「社員の歩み」を

株式会社美装会長 福嶋 義信



始めました。

それに基づき実務習得、各種試験合格、各種資格取得した15年目の社員には、当社役員あるいは別法人経営者として十分働けるよう経営全般の知識習得に挑戦させました。社員は15年経過したら独立して別会社の経営を任せるよう指導しています。会議室には各種資格・試験合格者や表彰者の名前を明記したパネルを張り出し、自分は現在、社内のどういう位置にいるか常に分かり、刺激を与えるようにしました。

私は創業40周年を迎えた平成20年に社長職を現社長に譲り、代表権のない会長に退きました。第一線から退いた後は講演や研究会活動をしています。後任社長は私の10倍もの力を持つ人間です。当社には世襲は全くありません。そして社長職も「3期6年」を任期とします。社長は3~5年前から教育します。

私の夢は会社設立100周年を迎える122歳まで元気に活動することです。「一生青春・一生勉強」です。創業をお考えの皆様、是非「10ヶ年計画」を企て、計画(夢)をより多くの人に熱く語り、実行して頂きたい。必ず計画(夢)は実現します。

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

NPO 新時代の到来と産業クラスター研究会の今後の取組

NPO法人 産業クラスター研究会 理事広報部会長 平野和夫

寄付優遇税制が適用される「認定要件」の大幅緩和と「税額控除制度」導入を柱とする法律改正で、わが国の特定非営利活動(NPO)法人は2012年4月、新時代を迎えます。寄付者からの寄付に対して税制上の優遇措置を拡大する「改正NPO法」及び寄付金額の最大50%まで税額控除できる「税制改正法」が6月国会で成立しました。NPOは寄付を受け易くなる上に、寄付者も寄付しやすくなり、資金不足で窮屈な運営を強いられていたNPOは大きな前進が期待されます。

法改正は施行から12年で認証NPOが43,000法人を超えるまでに成熟した現行認証制度の見直し及び寄付促進・財政基盤の確立を目的に行われ、①観光など3項目の「活動分野追加」②内閣府から都道府県、政令都市へ「所轄庁変更」③定款変更時の届出事項の拡大など「簡素化・柔軟化」④「信頼性向上」などが主な内容です。国税庁長官による全国一律の認定制度を改め、都道府県知事らが地域の実情に応じて、地域に根差した公益の増進に役立つNPOを認定することは、NPO創設以来の大きな地方分権的な改革です。

現法では、寄付者に税金の一部が戻る「認定NPO法人」になるには「事業収入のうち寄付金が20%」の困難な要件があり、全国43,116法人の内、認定NPOはわずか232法人と0.5%に留まっているのが現状です(国税庁、2011年8月現在)。このため税制改正法では財政基盤の確立のための措置として①新認定制度の創設②仮認定制度の導入③みなし寄付金の損金算入一などが謳われています。「3,000円以上の寄付者が100人以上」の認定基準緩和で認定資格が取りやすくなったことは大きな前進です。

一方当研究会を始めNPOは今後、「新しい公共」の担い手として、公益活動の強化など責任ある行動を展開し、広く市民から支持を受けなければなりません。当研究会は東京国税局に対して認定NPO取得を申請、現在審査が進んでいます。新時代に向けた定款、運営規定、組織などの見直しも始めました。法人会員、横須賀・三浦地区や横浜市南部・北部の中小企業及び一般市民の皆様に対してお役に立つサービスを実施していくよう鋭意検討しています。

【歳時記】

幼時私は父の勤務先・茨城県勝田町(現ひたちなか市)にあった企業の社宅にいて、法事等で祖父母が居る都会の横須賀に出てくるのが楽しみだった。特に繁華街のさいか屋は、茨城の家の方にはデパートがなく、珍しかった。

大人の腰の高さほどのショウウインドウが整然と並び、買い物をする客や勘定をする店員の声を聞きながら、豪華(に見えた)な室内、柱や壁の装飾に胸が膨らむ気がした。照明の、背面を青く塗った管球が付いたウインドウガラスに外側から私が顔を当てると熱く感じたのと、売り場に漂っていた着物類の上品な香りとが今でもよみがえる。

階段の踊り場には、コインで軍艦マーチと共に軍艦が波を蹴って航行する映像を見せる装置があつて、これも楽しみで毎度、親にねだつた。汐留(現汐入)駅の上の諏訪神社が盛大で、山上にあつた動物園が楽しみでよく行つた。戦争が終つて住むことになつた横須賀には驚いた。焼けなかつた街の面影は残つたが、占領下で白い制服の米兵が満ちていた。

国鉄の横須賀で下車して汐留(現汐入)から京急に乗り公郷(現県立大)で降りる自宅までの間、汐留駅近傍は米軍相手の紅灯の巷、大型のナイトクラブが全盛で、小さな店でもバンドを入れていて歌手の歌声、腹に響く様な低音のベースの音、基地の拡声器の男の英語の声(PC、携帯など無いので陸上設備、艦船との連絡は拡声器に依つていたように思う)が深夜まで響き渡り、深夜の汐留駅までよく聞こえた。

今は復元されたが当時の三笠艦も上部構造が取り外されて錆びるに任せられ、上に体育館のようなホールが建つてダンスホールとなり、海側の側板の外は水槽にされて艦内の舷窓から魚を見る水族館になつていた。食料難で、各家庭はすいとんや蒸しパンを自製していた。蒸しパンは重曹を入れて蒸すのだが、横須賀では良いイースト菌が米軍から手に入った。父と勝田へ帰る時、茶碗に小麦粉でこねたイースト菌を入れ、貴重品のようにして横須賀を出て、2時間毎に空気を入れる為に手でこねる。丁度東京駅でこねた場所が、乗車口(丸ノ内南口)のドーム下のホールだったが、ドームは戦災でやられて、仰ぎみると残つた鉄骨を通して秋の星空が見えたのを覚えている。(朗)



法人会員紹介

タイホーエンジニアリング株式会社

自動車のばね用熱処理炉の 設計・製作を得意とする工業炉メーカー

〒108-0074

東京都港区 2-12-41 高輪第一ビル 5 階

TEL : 03-5789-7720 FAX: 03-5420-6231

URL <http://www.taiho-eng.co.jp/>

代表取締役 山本克巳

当社の前身は昭和 47 年 9 月、工業炉の設計・製作を目的に設立されたタイホーエンジニアリングサービス(株)で、昭和 52 年に日本クリエート(株)と合併、社名をテスコエンジニアリング(株)に改め、輸出入部門を併設しました。そして、二度の増資、吸収合併などを経て業容を拡大しましたが、昭和 63 年熱処理部門、平成 5 年輸出入部門をそれぞれ産業ケミカル事業のタイホー工業(株)へ移管しました。

その後、タイホー工業(株)からシステム機工(株)、テスコエンジニアリング(株)へ熱処理部門移管、さらに太南工業(株)へ譲渡などの変遷を経て、平成 18 年 4 月、社名をタイホーエンジニアリング(株)に変え、現在に至っています。同時に山本克巳が代表取締役に就任しました。

当初は熱処理炉、真空炉、アルミニウム溶解炉など各種の工業炉を設計・製作していましたが、現在は「自動車のばね用熱処理炉」に特化し、この分野では他社が追従できない技術を持つ工業炉メーカーです。ばね成形用加熱炉、ばね用焼戻し炉、アルミニウム鋳物用熱処理及び砂焼兼用炉などが主力製品で、製作は協力会社に委託しています。技術革新の最先端を行くコンピュータの組み込みにより、完全な操炉管理ができる最新鋭の工業炉は、国内だけでなくインドネシア、タイ、マレーシアなど広く海外からも好評を得ております。国内の主な納入先は日本発条グループ、三菱製鋼、中央発条、プレス工業、曙ブレーキ工業など自動車部品メーカーです。



巻きばね成形用加熱炉

立会い、メンテナンスに至るすべてを担当するのが特長です。このような業務体制から社員一人ひとりの技術能力が日々向上し、その結果として当社の総合技術力が益々高まるといふ好循環をもたらしています。少数精鋭かつ技術伝承が確立されていると言えます。

当社では、古くは昭和 48 年に製作した工業炉の手書き設計図面から最新の CAD/CAM 設計図面まで全て保存しておりますが、事務所の棚には先輩社員の血と汗の結晶とも言うべき設計図面が約 400 冊のファイルに収められ並んでいます。正に当社の宝物です。

このようにして、少なくとも一度当社が設計・製作した工業炉については、現在、顧客から設計変更などの注文があっても、オリジナルの設計図をもとに注文通りに設計をし直すことは十分可能です。昨年の新卒入社社員が今年の夏、ある顧客の仕事を見積もり、設計から始まり、現場では熱中症と闘いながらも工事監督、試運転立会いとひとりでやりぬきました。

多大なエネルギー消費に伴う地球環境温暖化防止対策については、石油燃料に比べ CO2 排出量が少ないとされる天然ガスに転化して、貢献しています。東日本大震災以降の景気動向の悪化を受けて、今後国内での新設炉の受注は厳しいと見て、東南アジアを中心に海外での工業炉の新設受注に期待します。



事務所奥の書棚には 37 年前からの 400 冊の図面ファイルが並ぶ

当社は社員数わずか 10 人ですが、社員一人一人が見積り、設計、図面作成から現地工事監督、試運転

環境事業部会

エコアクション21 認証・登録「EA21」 取組み支援活動事業を本格化します

中小企業様が、昨今の厳しい経済環境を乗り越えるために、環境経営に取組み、高い CSR(企業の社会的責任)を果たして、持続性ある経営基盤をつくることが求められています。当部会も、これを達成すべく支援事業として、「EA21」や、「ISO 認証・取得」のコンサルティング及び支援(以下「支援」)を23年度の重点事業に掲げました。

特に「EA21」は、中小企業様に取組みやすく、環境経営基盤をつくる上で有効な方法です。当部会も1年余り取組み、この8月に初めて、中小企業・2社様(廃棄物処理・リサイクル業)の「支援」を完了し、認証・登録の運びとなりました。中小企業様に「EA21」の取組みを推奨する上で、これまでの実績を踏まえ、「EA21」の「支援」活動事業を本格化します。



環境方針に基づく EA21 コンサルティング風景

以下に、その「支援」活動を紹介します。

(1) エコアクション21 認証・登録制度とは ISO14001 をベースとして、広く中小企業様などへの普及を促すために環境省が考案・策定した環境マネジメントです。その骨子は環境経営システム、環境への取組み、環境報告の3要素が一つに統合されています。全ての事業者が、環境への取組みを効果的に行うことを目的に、①環境に取組み仕組みを作る(Plan)、②取組みを行い(Do)、③活動結果を自己チェック(Check)し、④それらを継続的に改善し(Action)、その結果を社会に公表するためのガイドラインで、この取組みを行う事業者を、審査し、認証・登録する制度です。

(2) 「EA21」取組みのメリット(実践的評価)

- 1) 環境経営システムに取組むと、①全員参加の取組みが進む、②取組む目標が明確になり、達成意欲がわく、③目標が未達の場合も原因を明らかにできる、④年々継続的に改善できる。企業の標準化や様々な問題解決に役立ちます。
- 2) 事業所の環境負荷として、二酸化炭素排出量(電気、水道、燃料)、廃棄物排出量、化学物質使用量の把握と削減の取組みは、省エネ効果、法令遵守の意識が深まり、環境パフォーマンスが向上します。
- 3) 取組み結果を「環境レポート」として公表することは、自からの環境への取組みを推進し、社会からの信頼を得て、企業がより発展して行くための重要な方法です。企業 PR となり、東日本大震災後、最も話題となる BCP/BCM(企業継続計画/管理) の一環となります。
- 4) 環境経営システムを継続的に改善することにより、環境面だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、仕事の質の向上、目標管理の徹底などの効果も期待できます。
- 5) 多くの大企業が、環境経営システムの構築を取引条件の一つにしており、これに対応できます。また、自治体の補助金を受けられたり、入札参加資格審査での加点を受ける場合があります。

(3) 当会の「支援」活動の特徴

- 1) 当会の「支援」スタッフは、ISO の審査員資格者が行い、「EA21」取組み実践経験者がアシストし、各分野の専門知識を持つスタッフが様々な経営改善手法のアドバイスも行います。
- 2) 従業員が数人の中小企業様の「支援」もご事情に合わせて、認証・登録が完了するまで誠心誠意行います。特に、「廃棄物処理・リサイクル業」への取組みは、既にマニュアル化が進み、実利的な支援が可能です。
- 3) 認証・登録完了までの「支援」期間は、8カ月位が目安です。自治体の補助金の手続きもいたします。

以上、皆様のご相談・ご活用のご連絡をお待ちいたします。

(部会長 阿部昭彦)

📍 広報部会・HP 事業部会

新 HP 制作・公開体験とその HP 事業への展開



新 HP 公開までの経緯

新ホームページ (HP) の公開は、昨年9月頃に発生したメールトラブルの調査に端を発し、メールプロバイダ変更、HP レンタルサーバ変更と続くインターネット関連の更新計画の一環であります。HP には、コンテンツの陳腐化抑止の課題があり、当研究会では、年3回ほど更新をしておりましたが、よりタイムリーな更新の要望がありました。

新 HP の制作方針と制作アプローチ

「タイムリーなHP更新」。今回のHP制作の基本方針です。その実現のため、HP制作の専門家に依頼し、提案されたのがWordPress。近年欧米でシェアを拡大している制作ツールで、各種の記事をページ枠内にレイアウトして制作する伝統的な方式に加えて、記事をHPに投稿(登録)しておき、カテゴリ検索、時系列検索などの手段により、記事を動的に再構成して表示する方式を併せもちます。

投稿にはHP制作の深い専門知識を要しないので、誰でもHP制作に容易に参加できます。当研究会では、HPを運営する広報部会のメンバー並びに各事業部会長が定期的または随時に投稿することで、「タイムリーなHP更新」を実現することにしていきます。

もう一つの提案がプロトタイピングという技法を使った制作アプローチ。試行錯誤しながら徐々に完成度を高める方法です。ともすると目標点を見失い易い方法ですが、参加者が制作ツールに習熟するのに効果があります。なお、当研究会ではHP公開の目標を総会直後に設定し、一致団結して総会資料の投稿も含めて目標を達成しました。



HP制作の新たな課題とその対応

投稿という簡便なHP制作・更新手段は、コンテンツの粗漏、機密情報・個人情報の漏洩等を招き易く、また多くの人に参加するので、管理面から投稿手順を確立する必要性が生じ、その取り組みをしております。

HPは、コンテンツの充実に加えて、見易さや分かり易さなどの感性的な要素も重視する必要があります。今回、制作途上で出てきた改善項目の中にも、この種の要望が数多く含まれております。対応は簡単ではないですが、現役時代の「対話処理における使い易さ」の理論を紐解き試行しながら改善を進めております。

HP制作・公開体験のHP事業への展開

当研究会には、法人会員のHP制作・更新を支援するHP事業部会がありますが、今回の新HP制作あるいは公開の体験を踏まえて、

- ①HP レンタルサーバ変更や新HP制作の体験で得られたノウハウを生かせる事業内容への拡大
- ②当研究会のHPを利用して支援をして行くアプローチの追加
- ③投稿という手段をもつWordPressは宣伝、紹介、報告など、記事の多い分野に特に適しているため、その観点からの事業対象分野の拡大
- ④事業体制の強化

など、事業全般を見直し、受注の拡大を図って行きたい。さらなる活用をお願い致します。

(新井全勝)

企業支援事業部会

社会福祉法人の新入社員向け「ビジネスマナー・コミュニケーション技法」研修

キャリアコンサルタント・千葉理恵子さん(株式会社ティー・エム・シー専務取締役)が講師を務める新入社員向け「ビジネスマナー・コミュニケーション技法」研修が8月11日、18日の両日、社会福祉法人 誠心会(横須賀市長瀬)で行われました(共催:財団法人 横須賀市産業振興財団)。誠心会は法人会員・有限会社湘南安全硝子の濱田徹会長が理事長を務めています。



4月1日開設した横須賀市内2か所目の児童養護施設「しらかば子どもの家」、市内初の乳児院「しらかばベビーホーム」の児童指導員、保育士40名が二班に分かれて、合計5時間にわたる研修を受けました。若者達は千葉さんの、時には

爆笑を誘う巧みな話術による「ロールプレイ」(実技演習)を楽しみながら、挑戦していました。千葉さんの研修は話を聞くだけの単なる座学でなく、参加者がロールプレイして、ビジネスマナーを体得するのが特長です。

最も基本的なお辞儀については、参加者全員立ち上がって、会釈、敬礼、最敬礼の3種類を実演で学びました。電話対応については、「電話に出る」「相手の確認、用件を聞く」

「復唱・確認」「お礼を述べて静かに切る」の基本から始めて、担当者不在、クレーム電話の対応を、二人一組で何度も繰り返しました。

厳しい環境に置かれている子ども達を相手にする仕事柄、相手の話を受け止める心と耳を鍛えることが求められ、「傾聴技法」と呼ばれる研修もロープレで全員が挑戦しました。やりがい、社会貢献などと書かれた20枚のカードから、現在の精神状態を表す10枚を選び、みんなの前で発表する「私は誰」ゲームも体験しました。終了後参加者は「尊敬語、謙譲語、丁寧語の相違が分かった」「傾聴のロープレでは聞く姿勢、相槌の大切さを学んだ」などと感想を語っていました。

当研究会と産業振興財団共催の新人研修は昨年に続き2回目で、濱田理事長は「実演を交えた研修は若い人にも好評で、来年の新入社員にもぜひ、実施したい」と話していました。当研究会としても三浦半島の中小企業に対して実施を勧めていきます。

(広報部会長 平野和夫)



住宅リフォーム事業部会

武町内会館で文化講座付き「住宅リフォームPRセミナー」を開催

当会では数年前から、ボランティア活動の一環として建築士の資格を持つ当会員が住宅リフォームの契約から工事完了までをチェックする「目付け役業務」を行っています。しかし、市民へのPR活動が不十分だったこともあって、3年前から横須賀市の支援を得て市内各地で年に5~6回PRセミナーを開催してきましたが、業者のセミナーと混同されて今一つPR効果は上がっていませんでした。

そこで、昨年からの地域の連合町内会へセミナー開催の支援をお願いすることにし、今年にはさらに協力関係を深め連合町内会と共催に近い形で進めることにしました。また、東日本大震災で市民の地震への関心が高まっているため、セミナー内容でもできるだけ地震対策を盛り込むことにしましたが、難しいテーマばかりだと敬遠されるので、はじめに文化講座を行うことにしました。

このような企画で今年最初の「目付け役業務PRセミナー」は、9月20日(火)午後武町内会館で開催しました。はじめに郷土史家の辻井善彌先生から『日記に見る不安と恐怖』というテーマで、市内大田和の農民、浅葉仁三郎・保蔵・友三郎の三代が天保5年(1834)から明治35年(1902)までの69年間に書き残した「浜浅葉日記」にある1854年の安政東海地震や1855年の安政江戸地震、さらには1855年のペリーの浦賀来航時の庶民の様子をご紹介

頂いた他、1707年の宝永地震が東海・東南海・南海の連動型地震だったことや49日後に富士山が宝永大噴火をしたことなど興味深いお話を聞かせて頂いた。

次に会員の大井より横須賀市の耐震診断と耐震補強工事の補助金制度について、事例を交え分かりやすく解説して貰い、続いて会員の古川が当会の「目付け役業務」の内容紹介を行うと共に、当会が実施しているサラリーマンOB居場所クラブへの登録のPRもお願いした。

今回は、10月末(日時未定)に岩戸コミセンで開催の予定。(部会長 古川弘康)



発行：NPO法人 産業クラスター研究会 / 〒239-0847 横須賀市光の丘 8-3 YRPベンチャー棟 209号

Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 / 〒236-0055 横浜市金沢区片吹 69-26

Tel : 045-781-8025

E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武